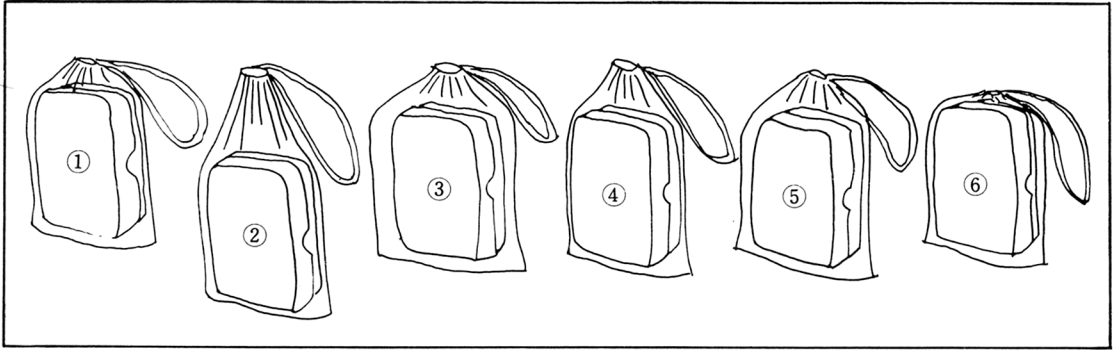


袋の標本



「この箱を入れるのに、①から⑥までの袋の中で、どの大きさがよいと思いますか。」の発問に対する児童の反応は、つぎのとおりである。

| 標本番号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|-----------|-----|---|---|------|-----|------|
| 適切だとした支持率 | 3.0 | 0 | 0 | 87.9 | 6.1 | 3.0% |

①⑤⑥を選んだ12.1%の児童は、問題があったが、この予想後、実際に箱の出し入れをして、話し合った結果(㊦の項参照)、④に思考変更をした。

㊦ 「グループ毎に、袋をひとつずつ分担して、さいほう箱の出し入れをして、大きさのぐあいが適切かどうかたしかめる。」

つぎのような児童の発表があげられた。

| | | | | | |
|--|---|--|--|--|--|
| ① わきのゆるみ (約1cm) 口のゆるみ (約3cm) | ② わきのゆるみ (約1cm) 口のゆるみ (約15cm) | ③ わきのゆるみ (約6cm) 口のゆるみ (約8.5cm) | ④ わきのゆるみ (約1cm) 口のゆるみ (約8cm) | ⑤ わきのゆるみ (3cm) 口のゆるみ (8cm) | ⑥ わきのゆるみ (約1.5cm) 口のゆるみ (約0.5cm) |
|--|---|--|--|--|--|

この作業から、各自の児童が、袋の適切なゆるみを数的にとらえることができたと考えられる。

〈口をしめるためのゆるみ8cm〉は、箱の幅15cmと対比して考えさせ、幅の半分であることに気づいた。しかし、事後テストから計上された有効度指数は、他のゆるみやぬいしろより若干下まわっていたのである。これは、種々の箱を例にして半

① 口をしめるところが、みじかすぎる。

② 口をしめるところが長すぎて、箱を出す時、手を下の方まで入れないと、とれない。

③ わきがぶかぶかです。

④ いいぐあいです。

⑤ ③と同じで、出し入れがゆるすぎます。

⑥ 出し入れはいいけど、ひもをしめる時、口があいて、ひもがそろわないようです。

㊦ 「①から⑥までの袋のゆるみはどうなっているか、実際に測ってみよう。」

班毎に、標本をひとつずつ分担し、わきのゆるみと、口をしめるためのゆるみを実測し、カードに記入した。そして標本とつき合わせた。

実測の結果は、下記のとおりである。

分の考えを徹底しなかった指導の甘さかもしれない。

〈ぬいしろ〉

これは、前に学習した「ほころびの直し方」の(わき)のぬいしろと関連させながら、標本の観察をすることによって1.5cmぐらいにとらえることができたので、効果があがった。